

## 医療倫理学

責任者・コーディネーター	人間科学科哲学分野 遠藤 寿一 教授		
担当講座・学科(分野)	人間科学科哲学分野		
担当教員	遠藤 寿一 教授		
対象学年	1	区分・時間数	講義 21 時間
期間	前期		

### ・学習方針（講義概要等）

現代医学の発展はめざましく、病気や障害に悩む多くの人々に福音をもたらしている。しかし他方では、延命治療技術の進歩によって安楽死問題が生まれたように、生殖医療、移植医療、遺伝子診断などの先端医療技術は新たな倫理的問題も生み出している。

「生命倫理学」では、将来の医療人を目指す受講生が、こうした倫理的問題について深く理解し、広い視野から問題を考察するための基礎力養成を目指す。

### ・教育成果（アウトカム）

現代医療が直面している倫理的問題点を理解し、対立する諸見解を各自の観点から整理する作業を通じて、自分の立場を明確にすることができるようになる。（ディプロマ・ポリシー：1,5）

### ・到達目標（SBO）

1.終末期医療、生殖医療、移植医療等の現状を理解し、どのような点が倫理的に問題になっているかを説明することができる。  
2.安楽死は許されるか、脳死は人の死か、遺伝子診断はどのようにあるべきか等について、提起された諸見解を整理し、日本の現状にそくして、自分の見通しを述べるることができる。

### ・講義日程

（矢）西 101 1-A 講義室

【講義】

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容/到達目標
4/17	月	1	人間科学科 哲学分野	遠藤 寿一 教授	生命倫理とは何か 1. 生命倫理の問題圏について説明することができる。
4/24	月	1	人間科学科 哲学分野	遠藤 寿一 教授	安楽死 (1) 1. 安楽死の現状を説明することができる。
5/1	月	1	人間科学科 哲学分野	遠藤 寿一 教授	安楽死 (2) 1. 安楽死の倫理的問題点を指摘することができる。
5/8	月	1	人間科学科 哲学分野	遠藤 寿一 教授	安楽死 (3) 1. 安楽死の今後について、自分の意見を述べるすることができる。
5/15	月	1	人間科学科 哲学分野	遠藤 寿一 教授	移植医療 (1) 1. 移植医療の現状を説明することができる。
5/22	月	1	人間科学科 哲学分野	遠藤 寿一 教授	移植医療 (2) 1. 移植医療の倫理的問題点を指摘することができる。
5/29	月	1	人間科学科 哲学分野	遠藤 寿一 教授	移植医療 (3) 1. 移植医療の今後について、自分の意見を述べるすることができる。
6/5	月	1	人間科学科 哲学分野	遠藤 寿一 教授	生殖技術 (1) 1. 生殖技術の現状について説明することができる。
6/15	木	3	人間科学科 哲学分野	遠藤 寿一 教授	生殖技術 (2) 1. 生殖技術の倫理的問題点を指摘することができる。
6/22	木	3	人間科学科 哲学分野	遠藤 寿一 教授	生殖技術 (3) 1. 生殖技術の今後について、自分の意見を述べるすることができる。
6/29	木	3	人間科学科 哲学分野	遠藤 寿一 教授	人工妊娠中絶 (1) 1. 人工妊娠中絶の現状について説明することができる。

7/6	木	3	人間科学科 哲学分野	遠藤 寿一 教授	人工妊娠中絶（2） 1. 人工妊娠中絶の倫理的問題点を指摘することができる。
7/13	木	3	人間科学科 哲学分野	遠藤 寿一 教授	人工妊娠中絶（3） 1. 人工妊娠中絶の今後について、自分の意見を述べるができる。
7/20	木	3	人間科学科 哲学分野	遠藤 寿一 教授	生命倫理と優生思想 1. 生命倫理の諸問題と優生思想との関係について説明することができる。

・教科書・参考書等

教：教科書      参：参考書      推：推薦図書

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	医学生のための生命倫理	松島・盛永 編	丸善書店	2012
参	基礎から学ぶ生命倫理	村上喜良	勁草書房	2009
推	命は誰のものか	香川知晶	ディスカヴァー・ トゥエンティワン	2007
参	資料集 生命倫理と法（ダイ ジェスト版）	生命倫理と法編集委員会	太陽出版	2002
参	生命倫理事典	酒井明夫、他 編	太陽出版	2007
参	生命倫理百科事典	W.ライク、他 編	丸善株式会社	2007

・成績評価方法

原則として以下のように成績を評価する。  
平常点 20 点（毎回の受講態度＋毎回の課題）＋定期試験 80 点＝100 点

・特記事項・その他

本講義では、講義内容の理解を深めるため、毎回受講生に課題を出し、関連するテーマについて各自の考えをまとめてもらう。また講義についての疑問点等がある場合は、合わせて記載し、提出してもらう。課題の内容や疑問点の内容については、次回の講義の中で適宜とりあげ、解説を行う。  
なお、教科書と各回配布される資料を用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低 30 分とする。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	パソコン（FAITH Fortission Si35300X/DVR）	1	講義資料作成、他
講義	ノート型 PC（富士通 FMV-BIBLO LooxC/E50）	1	講義資料作成、他
講義	ノートパソコン（富士通・FMVLCE70B）	1	講義資料作成・保管、プレゼン、他